

## 取組実績の概要（2 ページ以内）

## ①取組概要と大学改革の加速

本学は「東京理科大学における3か年中期計画」において、文部科学省の各種答申等をふまえた教育方針や教育の質保証、教育の次世代化等の様々な教育目標を掲げている。この中で、「特色ある理工系教育プログラムの実施」、「教育の質保証に向けた方策の充実」、「教育の質向上のための教育課程の整備」等の具体的な目標を定め、その実現に向けた取組を、教育支援機構教育開発センター（本学における教育施策を実施するとともに、教育活動の継続的な改善の推進及び支援を行うことにより、本学の教育の充実及び高度化に資することを目的とした、学長の下に設置した常設組織。センター長は教育担当副学長。）が中心となり実施している。

導入した本事業では、学生視点での「学生の主体的な学び」をより促すため、本学の教育の質の保証・向上のためのサイクルの中に、2つの取組（「学修ポートフォリオシステムによる学修成果の可視化」及び「授業収録配信システムによるアクティブ・ラーニングの促進」）を組み込み、学生の学び全体をより質を伴うものに変革していくことを目指し、実績を積み重ねている。

「学修ポートフォリオシステム」については、本システムの導入により、学生自身が学びのプロセスや成果物を示す資料等を蓄積した学修ポートフォリオを、継続的かつ定期的に振り返ることを通じて、学修の到達度を確認し、取組むべき課題を発見することができるようになった。また、学修の評価を行う際の基準表（ループリック）により、「どのような項目を、どこまで学修すれば、どのようなことができるようになるのか」という指標が分かりやすく明示されていることにより、当該学期の学修の振り返りをもとに、次期に向けての明確な学習目標を立てられるようになった。一方、大学（教員）側は、本システムをもとに、学生の個別の学修指導等に活用することができるようになっただけに留まらず、学生の学修成果を把握することで、学生の授業満足度のさらなる向上、退学者の減少、教育活動の見直し等にも活用することができるようになった。

「授業収録配信システム」については、本システムの導入により、学生は収録された授業コンテンツを、時間や場所の制約を受けることなく閲覧できるようになり、連続的・反復的学習の習慣が身につき、知識の定着に役立たせることができた。一方、大学（教員）側は、学生の主体的な学びを促進することができるようになった。

さらに、本取組の実質化、質の担保等を目的とした、学外の有識者による、アクティブ・ラーニング化に向けた授業デザインの実施やセミナー・ワークショップ等の開催、さらには、検証の一環としての学外の有識者等を委員とする評価委員会の開催、「学生からの意見聴取会」の実施等も行ってきた。

以上の取組、施策等により、「学生自身による学修のPDCAサイクルの確立」に向けた、大学改革のための土台整備が完了し、改革が加速しつつあると考えている。

## ②実施体制

学内の実施体制については、前述のとおり、本学には、教育担当副学長をセンター長とする、各種教育施策を実施する常設組織として、教育開発センターを設置している。本センターと各学部等が連携することで、学長の下、本取組を全学的に展開、推進できる体制を構築している。

## ③実施計画・継続性

「学修ポートフォリオシステム」については、平成26年度にシステム開発を行い、平成27年度より運用を開始しており、計画どおり遂行できている。平成30年度には、平成29年度までの利用実績等をもとにしたデータ解析、効果測定、課題の分析・検証等を実施し、これらをふまえた改修・バージョンアップを令和元年度に実施し、より効果的、発展的なシステムとして運用できるようになった。さらに、今後は、本システムを活用したカリキュラム検証、ディプロマ・サプリメントの導入等、実施していく予定である。

「授業収録配信システム」については、外部業者への委託も含めた収録・編集サポート体制を構築していたが、本システムの運用により、授業コンテンツへの認知度、利用率等が上がってきたことから、今後は、本システムによる授業コンテンツの作成と並行し、令和元年度より、授業コンテンツ作成に活用できるソフトウェア等を利用した、「教員自身による授業コンテンツ作成」を拡大しており、本システムを発展的に継承、展開していく予定である。

さらに、今後も引続き、本取組に係るテーマを中心とした FD セミナー等を開催することで、学内教員の教育内容や方法の改善・向上を図る予定である。

また、補助期間終了後の継続発展に向けた取組については、本学として本事業の取組の継続性を担保し、さらなる発展を図ること、また、反転授業をはじめとした ICT を活用した教育を推進していく必要があること等をふまえ、具体的事項を検討・実施することを目的に、**教育開発センター**の下に常設している **ICT 活用教育推進小委員会**が中心となり、本事業の推進のための助言をいただいていた学外の専門家及び AP 評価委員会委員等と、引続き連携できる体制を構築し、共に検討、推進していく予定である。

#### ④成果の普及

本学は平成 27 年度より、毎年度末に学内外の大学等関係者を対象に、本事業の**成果発表会**を開催しており、各種媒体の活用や本事業に採択された大学等に対するリーフレットの送付等により、本学の AP 事業の取組を周知しており、毎回 100 名程度（内、学外者 20 名程度）の参加があった。さらに、「**教育芸術新聞**（2721 号：平成 30 年 3 月 28 日）」への「**平成 29 年度 AP 成果発表会**」に係る記事掲載、「**中央教育審議会大学分科会将来構想部会**（平成 30 年 4 月 17 日）」での取組事例報告、「**今後のわが国の大学改革のあり方に関する提言**（平成 30 年 6 月 19 日/一般社団法人日本経済団体連合会）」への資料提供、「**月刊経団連**（平成 30 年 9 月号）/一般社団法人日本経済団体連合会発行の機関紙」への寄稿、「**日本私立大学協会教務研究委員会**（平成 30 年 9 月 11 日）」での取組事例発表、「**名城大学第 20 回 FD フォーラム**（平成 30 年 10 月 31 日）」での講演、「**第 25 回大学教育研究フォーラム**（平成 31 年 3 月 23 日～24 日）」でのポスター発表、「**首都圏・私工大教務連絡会**（令和元年 6 月 25 日）」での講演、日本私立大学協会「**大学教務部課長相当者研修会**（令和元年 9 月 24 日～26 日）」への資料提供、日本私立大学協会研究報告『**「三つの方針」に基づく学士課程教育の充実～「学びを大切に作る社会を築くために～**」（令和元年 10 月 25 日）』への資料提供、等を行う機会を得ることができ、また、**実践女子大学**からの訪問（平成 30 年 9 月 18 日）、**立命館大学**からの訪問（平成 31 年 3 月 7 日）も実施される等、普及効果を発揮していると考えられる。

#### 【必須指標の達成度】

|                             | 平成 26 年度<br>（起点） | 令和元年度   |         |
|-----------------------------|------------------|---------|---------|
|                             |                  | 目標      | 実績      |
| AL を導入した授業科目数の割合            | 22.3%            | 50.0%   | 66.6%   |
| AL のうち、必修科目数の割合             | 33.8%            | 70.0%   | 59.1%   |
| AL を受講する学生の割合               | 15.8%            | 50.0%   | 58.8%   |
| 学生 1 人当たりの AL 科目受講数         | 2.7 科目           | 15.0 科目 | 11.0 科目 |
| AL を行う専任教員数                 | 57.0%            | 80.0%   | 79.8%   |
| 学生 1 人当たりの AL 科目に関する授業外学修時間 | 10.1 時間          | 22.5 時間 | 15.8 時間 |
| 退学率                         | 2.3%             | 1.4%    | 1.6%    |
| プレースメントテストの実施率              | 59.9%            | 85.0%   | 83.5%   |
| 授業満足度アンケートを実施している学生の割合      | 71.9%            | 92.0%   | 64.4%   |
| 授業満足度アンケートにおける授業満足率         | 78.1%            | 97.0%   | 86.8%   |
| 学修行動調査の実施率                  | 84.3%            | 100.0%  | 85.2%   |
| 学修到達度調査の実施率                 | 84.3%            | 100.0%  | 85.2%   |
| 学生の授業外学修時間                  | 10.1 時間          | 22.5 時間 | 18.7 時間 |
| 学生の主な就職先への調査                | 無                | 検討中     | 無       |

※AL：アクティブ・ラーニング